

# 全佛通信

発行所 四月号  
全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ一(本願寺内)  
電話 二九六六  
〇三三三  
〇三三三  
振替 東京三六〇〇  
編集者 阿部竜彦  
編纂者 伊東堅純  
印刷所 ルンビニ社  
一部 二〇円

## 佛誕に想う

### 《花まつりを家庭に》

仏教徒であつて、仏祖釈尊の降誕を祝わない人はない筈である。わが国では、ことに明治以後、安藤嶺丸氏らの花まつり運動が国民行事にまで推し進めようという情熱をもって提唱されてからは、各府県市、あるいは地域の仏教会や団体に於いて盛大な催となつてきたことはいふまでもない。

しかし、現代の仏教徒として、仏誕の意義をどのように自らに受けとり、またどのように現代社会の人びとにその意義を明らかにしようとしているのかという問題について、今一度自分の上に問うてみる必要があるのではないかと思われる。

過日、朝永振一郎博士にお遇いする機会を得た。博士は宗教と科学の問題について、極めて簡単に語られた。「昔は宗教と科学とは対立していた。今日では、対立がなくなつた。一つには無関心になつたといふことだらう。」博士はそれ以上語られなかつたが、恐ら

く現代を代表する一つの発言であると考えさせられた。

現代人は、自然科学的な思考法のなかで育ち、機械化文明によつて生活の隅々まで洗礼をうけてきてゐる一方には、社会矛盾や人間関係の在り方、引いては自己の生き方について深い問題をかかえてゐる。

いわば、人間の所産である文化と、人間そのものが生きる願ひとの間に、大きなヒズミが生じているのが、今日の人間の深刻な問題であるといえる。

人間の出世の本懐とは何であるか。この問題にたえず帰つて、現代生活の方向を見究めるといふことが、今日の世界的な人間の問題であらうと思ふ。出世の本懐が見失われて、人間生活というものはありえない。出世の本懐は人間の真の主体をなすものである。人間が本願に目覚めることなくしては、人間が人間ではありえないであらう。

佐古純一郎氏が「現代は、人は大勢いるが人間がいない」といつてゐる。人は孤立してゐる。一人居ると淋しい。大勢いると喧ましい。つまり「我」を立場とした人間の問題である。我執を否定する仏法に眼が開けることによつて始めて一人居ても賑やかである。大勢いても静かである。孤立者でなく、独立者であることができるのである。

「天上天下唯我独尊」という仏誕の宣言は、真の独立者の誕生の声であつた。自我を固執しなくともよい人間の真の誕生の宣言である。自我に縛りつけられていた人間の無知から、大いなるいのちかぎりなきいのちへの解放の叫びである。

現代の問題は確かに複雑で激しい。しかし、深いとはいへない。一人間の問題は単純で微かなものであるかもしれない。しかし、一人の生死の問題は深く、全人間にひびきつながら問題である。釈尊の出世は、釈尊以前の人間も救ひ未来の全人間の光となつたのである。その意義を仏教徒は今こそ、自らの上にも確認し、一人を通して世界の使命に立ち上らねばならないであらう。

生命尊重、平和の問題は、今や全人類の問題となつてゐる。しかし、その発言の源が我執から出ては、憎悪斗争に終る危険性をはらむ。無我の法を根元とする仏教徒の真の発言が強く願われねばならない秋である。

天地を指さし、すつくと本願の大地に立たれた誕生仏は、二千五百年前の姿ではなく、現代の人間

像でなければならぬのである。花まつりが華々しく開催されることも必要であらうが、もつと家庭のなかに持ちこまれる花まつりの意義を検討してみる必要があると思われなければならない。四月八日を期して、全寺院が花御堂をしつらえて、道ゆく人々にも灌仏ができるように積極的な統一運動を起すべきであらう。一人一人の胸に仏

灯が点されてゆくことを念じつつ……  
出世の本懐にあうという、そのことだけが人間の真の平和につながる道が開けることになつていくであらう。  
(全仏評議員  
大谷派東京宗務出張所次長  
藤原 俊)

## 印度仏跡巡拝・各国訪問団募集

一、期間 第一班、十一月六日(土)出発、  
十二月三日(金)帰国、  
第二班、十一月十三日(土)出発、  
十二月十日(金)帰国  
夫々二十八日間

一、旅程 タイ、ビルマ、印度、ネパール、  
セイロン、マレーシヤ、香港、  
台湾

一、費用 金五十五万四千円  
一、人員 両班とも二十名迄

一、資格 加盟宗派、仏、団体の推せん  
する方で僧俗男女を問いません。

一、申込 全仏国際局あて  
直通電話 (542) 二一九六九番

主催 全日本仏教会

### 南ベトナムの平和のカギは

## 仏教徒とベトコンの話合い

### ベトナム犠牲者法要で大森実氏が力説

混乱をつづける南ベトナムの、内戦は、現世界の注目の的であり政治的には北ベトナムに対する米軍の積極参加は世界の知識人の目をおどろかせ、ベトナムにおける平和の光明は遠く消え去ったかの観がある。文字通り泥と炎の内戦は過去二十年に亘りとどまるところを知らず、彼我の犠牲者は増加の一途をたどっており、同じ民族同志の戦いの現状は洵に遺憾寒心にたえないことである。全仏では既報の通り過日在日カトリック教司教を招き、南ベトナムに平和を実現するため相互に提携を深めてゆこうと話し合いを行ったが、三月十六日午後二時より、東京文京区音羽の大本山護国寺において、「ベトナム犠牲者追悼懇親平等大法要」を、同山貫主岡本教海大僧正親下大導師のもと、厳そかに開催した。

祭壇には白木の位牌に「ベトナム犠牲者之霊位」とかかれ、高階全仏会長をはじめ、駐日米国公使チャールズ・B・フアース閣下、南ベトナム大使館二等書記官レクワン・ザン氏、カトリック教司教のハインリヒ・デューモリン氏、ヨゼフ・スパー博士、沢田、白柳両司教、それに南ベトナム尼僧の曇向、マンダラ両尼、レ・ヴァンバ師、米国アイオワ州カトリック教徒ハロルド・ゴールドスタイン

夫妻らが本堂内陣正面に着席すると、伊東部長司会により全仏で表して中山局長が挨拶し、ついで読経廻向が、岡本教海大僧正導師のもと、十五名の山内式衆出仕によりおごそかに始まった。読経中に焼香に移り、来賓、一般の順に香煙は万堂に充ち、参会者八十名は犠牲者の冥福を祈り合掌した。終って高階会長の追悼の辞があ



り、ついで毎日新聞社外信部長大森実氏より、「南ベトナムの現状と今後の見通し」と題する追悼講演をきいた。講演要旨は次のとおり「私は何度も南ベトナムを訪れているが、今度の北ベトナムの十

九度線を越えた地点に対する米軍の爆撃はいささかショッキングなことであった。このような米軍の「ショック療法」で北側が降参して来るようなことは考えられないし、かえってこれは反対に悪い結果を生むものと思われ。米軍のこのような行動は速やかに中止してもらいたいと思う。

私は南ベトナムの平和は、「ベトコンと仏教徒」が相互に話合うことによつて実現し得ると思う。仏教を信奉するベトナム人は国民全体の九割を占めている。仏教僧侶の代表者は真に平和を愛し、仏陀の慈悲と寛容の精神を徹底的に説き、しかもベトコンで一般民衆に「戦争反対」を説くべきである。一般民衆でも、一歩サイゴン郊外に出て見ると、ベトコンに襲撃され親、兄弟、を失っている農民はも早や戦争の解決法は知らず、毎日泣々としてにすぎない。

私は声を大にしてこう叫びたい。「ベトナム仏教徒よ団結せよ」と。ベトコンが僧侶の熱烈な説得をうけ入れたとき、米軍の「名譽ある撤退」が実現すると思う。南ベトナムの平和は、一つにベトコンと仏教徒の話し合いによつて実現して来ると信じて疑わない。

なお大森氏の講演にひきつづき先般南ベトナムを視察した参議院議員大谷よし雄氏がち帰った十六ミリフィルム「正法をまもる」が上映され、ゴ・ジン・ジエム前大統領の仏教徒断崖から、仏教僧の焼身自殺の生々しい場面、それにゴ政府の崩壊にいたるまでの記録フィルムを観賞し、午後五時すぎ閉会した。

十二月二十六日からサイゴンで先般印度で開催の第七回世界仏教徒会議において、南ベトナム側提出の議案「世界仏教青年会議大会の件」は、日本をはじめ各国の賛成を得て決議され、日本もその準備理事国に決まったが、南ベトナム代表ティック・テイエン・ミン師よりこのほど来信があり、サイゴンに第一回世界仏教青年大会召集委員会を設置し、過般打合せをなしたところ、来る十二月二十六日から明年一月二日に亘り第一回世界仏教青年大会をサイゴンで開催することに決定したと云う通報に接した。

全仏では早速全日仏青関係者にこの旨連絡した。

**サイパン方面へ**  
民間で初の慰霊団

三月二十四日中外日報社主催で民間初の慰霊団が羽田を発った、一行は十一名の小人数であるが、各地の慰霊を終えて四月五日帰国の予定である。これに先立って、三月二十三日九段会館で壮行会が開かれたが一行を囲む各界の関係者五十名が出席、盛んな激励を贈った、尚全仏から阿部組織部長が出席した。

**関東ブロック**  
都県仏教会長会議ひらく

八月に開催が決定した全日本仏教徒会議(長野大会)にそなえて四月二十五日県仏会会長半田孝海師の自坊、別所温泉で、関東ブロック都県仏教会長会議を開催する。同日は午前長野県仏の理事会を、又夕刻からブロック会議を、計

画されているが、主として大会の運営についての討議が行われるものよう。

**マララセーケラ博士来日**  
英文百科辞典関係者と懇談

駐英セイロン大使、前WFB会長及英文仏教百科辞典編纂所セイロン代表のG・P・マララセーケラ博士は、三月二日午後五時二十五分羽田着のPA機にて米国籍由で非公式に来日した。

当日空港へはマハルーフ在日セイロン大使、クレンヤム一等書記官をはじめ全仏阿部総務局長中山国際局長、孝道教団岡野統理夫妻、田丸常務理事、西村文化委員、柳近藤部長、鎌田主事らが出迎えた全仏では翌三日午後六時に中野「ホトギス」にマララセーケラ博士を迎え、英文仏教百科辞典編纂に関係している仏教学者を招いて歓迎晩餐会を開催した。

席上マ博士は「セイロンではすでに英文仏教辞典八千頁のうち七百頁が完成している。まだまだ氷山の一角にすぎないが、特に日本側学者諸師の絶大な協力を得て、この事業を成就したい。私は近い将来外交官を止めて、再び学者にもどつてこの事業を推進して行きたいと思つている」と述べ、終つて懇談に移り午後七時二十分頃散会した。なお当日はハワイの打合せ労々所用で来日した大原性実師も出席して、ハワイにおける準備状況について祥さにのべた。

出席者は宮本正尊、西義雄、高階会長、金岡秀友、田村晁祐、大原性実、森川智徳、阿部、中山局長、長谷川大成、柳部長、森氏、鎌田主事。

諸宗教の提携が平和を招来

全仏、カトリック司教と懇談

南ベトナムにおける内乱は日を追うごとに混迷を深めているが、全仏では二月二十六日午後二時に東京築地本願寺にカトリック司教を招き、仏基両教が今後は結束して世界平和に貢献すべきことを申合せた。

当日は中山局長司会ではじめられ、昨秋印度における第七回世界仏教徒会議で日本側が提案した「諸宗教と提携して世界平和実現に努力しよう」の議案についてその過程を述べた。長江司教は「過去三回のカトリック公会議で、非カトリック教徒と提携して世界平和に努力することはほぼ決議されているが、本年九月ローマで開く第四回会議でこれは決議されるだろう」と語った。なお話題の中心はベトナム問題にしばられ、過去六回に亘るクイデータは一般国民に利益をもたらすものではなく、単に上部将軍達の金もうけのためのもので、一般人こそ悲劇である。

仏教徒とカトリック教徒間のミゾは考えられない。これは信仰上の問題でなく社会生活上の問題であり、生活が苦しいと勢いベトナムに加入を求められると云った状態である。今度の内乱は長いベトナムの歴史からひもどいて見ればわからない。悪い植民地時代の影響が、カトリック教でなければ良いが、大学に入れない、外地留学も許さない、軍隊布教も出来ない、と云ったことをのこしている。これでは真の平和はベトナムにやってくる。

何らかの方法で日本のカトリックと仏教両代表が、ベトナム仏教々会やティン大司教へメッセージを送り平和を祈願すると云ったことをすべきではなからうか等々話し合い、午後四時頃散会した。出席者はハイインリヒ・デヌモリ(上智大教授)、ヨゼフ・スパー博士、長江恵司司教、松本徳明、今井大彰、有村満雄、井上真六、中山局長、阿部部長、鎌田、古宇田の諸師。

マレラ枢機卿と会見

ヴァチカンのローマ法王庁マレラ枢機卿は過般来日したが、全仏有志は三月二十六日午前十一時東京麹町のヴァチカニ公使館に同司教をたづね、歓迎の挨拶をなすと共に、仏基両教が今後も相互提携して世界平和のため努力してゆくことを話し合った。当日は金剛秀一、来馬道断師ら十名が出席した。

セイロン台風救援金目録

駐日大使へ贈呈す  
全仏では三月二十五日午前十時半に在京セイロン大使館にて大使へ左記目録の贈呈を行った。

- 金五千円也 長野県仏 長野県仏
金壹万円也 天台宗務所 天台宗務所
金壹万円也 浄土宗務所 浄土宗務所
金壹千円也 香川県仏 香川県仏
金壹千円也 三谷果山 三谷果山
金壹千円也 木下文堂 木下文堂
金壹千円也 渡辺泰経 渡辺泰経
金壹千円也 八耳哲雄 八耳哲雄
金壹千円也 杉崎貞次郎 杉崎貞次郎

Table with 2 columns: Amount (e.g., 金二万円也, 金壹万円也) and Donor Name (e.g., 杉崎義孝, 新義真言宗, 福岡県仏).

寺院経営の幼・保・日校教材として必備

仏教子ども行事音楽レコード

仏教子ども行事音楽

全国青少年教化協議会 選定
全日本仏教会 推薦



¥1,000(17cm盤1枚組)
豪華カートンボックス入り
楽譜・振付き(送料実費)

子ども花まつり(お花あげましょ捧げましょ)石井玲子
花まつり行進曲(むかし三千年)井口小夜子
魂まつり(そらはすずかぜおほしさま)ひばり児童合唱団
少女盆おどり(かねがなるなる 野山に町に)須藤敬子
仏の子ども(のびよのびよぐんぐんのびよ)井口小夜子
朝の歌(あさなあさなにみおしえあおぎ)ポーチエ・アンジェリカ
成道会の歌(ひがしのそらにおほしさま)香間 京子
涅槃会(みんなみんなないてます)ポーチエ・アンジェリカ

申込方法
このレコードご希望の方は全日本仏教会へお申込み下さい。折返し振替用紙(送料実費記入)を送付いたします。振替用紙到着後5日以内にレコードを発送いたします。
■東京都中央区築地3-1(本願寺内)
全日本仏教会

取扱い 全日本仏教会

東京都内花まつり大会 御案内

四月(日時) (会場)

|    |    |           |
|----|----|-----------|
| 一日 | 午後 | 上野松坂屋屋上   |
| 二日 | 正午 | 八千代信用金庫   |
| 三日 | 午後 | 鳥山支店ホール   |
| 三日 | 正午 | 亀戸地区各所    |
| 三日 | 正午 | 寺島隅田地区各所  |
| 三日 | 正午 | 新宿文化会館    |
| 三日 | 正午 | 荒川区会館     |
| 三日 | 正午 | 青山善光寺     |
| 三日 | 正午 | 麻布山善福寺    |
| 三日 | 正午 | 芝 青松寺     |
| 四日 | 正午 | 読売ランド     |
| 四日 | 正午 | 神田寺仏教センター |
| 四日 | 正午 | 音羽護国寺     |
| 五日 | 午後 | 秋多町多西体育館  |
| 五日 | 午後 | 亀戸三丁目 萩寺  |
| 五日 | 午後 | 吾嬬町地区各所   |
| 五日 | 午後 | 谷中観音寺     |
| 六日 | 午後 | 北松山町皆応寺   |
| 六日 | 午後 | 白木屋屋上     |
| 六日 | 午後 | 亀戸地区各所    |
| 七日 | 午前 | 牛込区会堂     |
| 七日 | 午後 | 池の端忠綱寺    |
| 七日 | 午後 | 赤羽団地大恩寺   |
| 七日 | 午後 | 池袋三越食堂    |
| 七日 | 午後 | 浅草蔵前かや寺   |
| 七日 | 午後 | 松葉町明和幼稚園  |
| 七日 | 午後 | 元浅草 了源寺   |
| 七日 | 午後 | 浅草寺観音堂    |
| 七日 | 午後 | 芝増上寺三門    |
| 七日 | 午後 | 丸ビル商店街    |
| 七日 | 午後 | 読売ホール     |
| 七日 | 午後 | 品川公会堂     |
| 七日 | 午後 | 西新井大師     |
| 七日 | 午後 | 下谷地区公共施設  |
| 七日 | 午後 | 土富店 長遠寺   |
| 七日 | 午後 | 雑司ヶ谷鬼子母神  |
| 七日 | 午後 | 松葉町明和幼稚園  |
| 七日 | 午後 | 白山通商店街    |
| 七日 | 午後 | 池上本門寺大堂   |

より一層の花を沿えた。猶幾多の一般会社団体の後援がよせられた。

ハワイ花まつり大会

全仏代表団出発

阿部全仏総務局長を団長として五島宗宣、中根専正、池野昌玄、河原晨晴、藤原利枝の各氏は、四月九日午後六時よりの飲送会をおえて翌十日空港ロビーに於ける出発式は金剛曹洞宗宗務総長の壮行の辞、団長の挨拶あり多数の見送りを受けて元気で出発した。

訂正

第二〇一号中 三頁 昭和四十年全仏予算中 歳入

第六款繰越金 10,000円 (誤 100,000円)

前年度予算額 出

第一款事務総局費 七二五,000円 (誤 七,三四,000円)

第二項事務費 第一目借館借室費 七五,000円 (誤 200,000円)

第二目通信費 四〇,000円 (誤 100,000円)

第三款組織局費 二五〇,000円 (誤 一,二五,000円)

第一〇一号中 四頁

仏旗パッチ 四五円 (誤 五〇円)

法輪パッチ 四八〇円 (誤 五〇〇円)

送料共 (誤 送別)

第十三回

全日本仏教徒会議

長野大会に参加しよう!

全日本仏教徒会議も高野山大会皮切りいらい、本年は十三回を迎え新時代に即応した「前向き」の姿勢にて国民精神の善導と世界平和の実現に貢献してまいりました。本年は一名仏都と呼ばれる長野市善光寺のお膝元で全一仏教運動推進のために左記の通り開催いたすことになりました。皆様の多数御参加をお待ちしております。

記

一、期 日 八月二十八日(土)二十九日(日)の両日

一、場 所 長野市市民会館

一、参加費 千円(全仏組織局あてに現金を添えて申込むこと。)

一、宿泊費 千二百円(予定)これは地元長野市善光寺大勸進内大会事務局あてに申込むこと。

一、観 光 三コース

一、参加申込ノ切 七月三十一日(厳守)

一、特別公演 「天平のいらか」前進座

八月二十八日夜 同二十九日昼夜

(詳細は全仏組織局にお問合せ下さい。)

主催 財団法人 全日本仏教会

東京都中央区築地三の一(本願寺内)

電話 (51)〇三三三 (542)二九六九 八六六六